

# 住宅再建

## pg1: 地震直後～再建過程

2008年5月12日に発生した中国大地震で住宅被害を受けた四川省綿竹市の被災者に、住宅再建のための赤十字支援金(※)が2009年末に届けられました。

綿竹市は住宅の8割以上が倒壊した激震地のひとつです。2010年2月現在、住宅の多くは既に完成していますが、被災者はそのために大きなローンを抱えています。住宅再建支援事業は、同市の農村地区住民の住宅再建を支援するために再建経費の一部を現金支給したものです。

日本赤十字社は、国内で寄せられたご寄付のうち、18億5700万円をこの住宅再建支援事業に充て、綿竹市内7つの町の被災農民1万6577世帯が日本の皆様からの支援金を受け取りました。



地震直後：住宅のほとんどが倒壊。再利用できる廃材を集め、テントでの避難生活 ©国際赤十字・赤新月社連盟



仮設住宅期(08年秋～)：農村部では、廃材で自分達で建てた小屋に暮らしながら家の再建を急ぐ ©日本赤十字社



家の再建：多くの被災者は政府の補助金と貯金では足りず、大きなローンを抱えて家を再建 ©日本赤十字社

# 住宅再建

## pg2:赤十字の支援金(※)を受けとった被災者の現在

※赤十字支援金:中国の赤十字社からの支援要請に基づき、国際赤十字が実施した、被災者の住宅再建経費の一部としての現金支給事業。被災程度や世帯構成などにより額は異なる。多くの被災者は政府からの補助金と貯金では足りず、ローンを抱えて住宅を再建している。



完成間近の住宅の前で、楊夫妻。夫の楊世林さんは元々悪い左足を地震で負傷し化膿。切断を余儀なくされ現在は義足。夫妻は野菜や果実の販売で生計を立てているが、新居には家畜小屋も設け、新たな収入源に期待を寄せる。

©国際赤十字・赤新月社連盟



(左) 支援金を受け取ったばかりの王さん。「私たち農民に現金収入は少なく、今後の返済が心配だったが、これで将来の返済にある程度めどが立った。日本の皆さん、本当にありがとう。」(右) 再建した家の前で、日赤の駐在員の位坂と謝夫妻。©日本赤十字社



2010年1月。激震地だった綿竹市九龍鎮の町全体の再建も進む。家は完成しつつあるが、道路の舗装などはまだこれから。©日本赤十字社